

田万川地域にまつわるストーリー

お菊化身地蔵伝説

応永のころ(室町時代)、小川の里に鍋山長者の一人娘お菊がいました。お菊は美しい娘でその立居振舞いの奥ゆかしさなど、村人から見れば天女のようなようでした。鍋山長者は早く娘に婿をと色々お菊にすすめますが、お菊は首をたてにふりませんでした。実はお菊は、使用人の七五郎に心を寄せていたのです。身分は違っても二人は忍び逢うようになり、やがてお菊は身ごもりました。しかし、このことが両親に知れることとなり、七五郎は長者館から追放され、お菊は悲しみのあまり江崎湾で身を投げてしまいました。長者館は大騒ぎとなり江崎浦の船頭衆総出で海に網を入れて探しましたが、お菊の亡がらは見つかりません。三日三晩探し続けたところ、木像が見つかりました。その姿が赤ん坊を抱いているように思えた母は、この木像を娘の化身とし尼になって浮島に小さな祠を建ててこの木像を地蔵尊として安置し、生涯娘の菩提を弔ったといわれています。

7年の歳月が過ぎたある日、出家姿の七五郎は浮島の祠を御堂に建て替え立ち去り、地蔵尊は江崎湾の守り仏として多くの人々から崇められ厚い信仰を集めました。

この話を聞いた毛利の殿様は、飛騨から大工を呼び寄せ、六角堂を建築したのでした。

その記念に植えられたという岩割の松は、お菊化身地蔵を守る七五郎のように今も六角堂の横に大きな枝を張っています。

地蔵尊は「子育て地蔵」と称せられ、8月24日の地蔵祭りは古くから北浦を代表する祭りの一つとしてにぎわいを見せています。



下小川 鍋山



西堂寺六角堂

江崎の町並み

江崎港は古来より天然の良港として栄え、江戸時代から明治中期にかけて北前船をはじめとする回船が寄航し、にぎわいを見せていました。戎町通・中町通・本町通・土居町・弁天通は昔からの漁師町であり、かつては旅館や回船問屋、酒屋など商家の建物も軒を連ね、江崎港からは米や蠟、紙といった「防長三白」が積み出されていました。当時の様子が古い絵図にも描かれています。今でも江崎には、かつての町並みを伝える通りが残っています。

江崎の港、町並みを一望できる

室町時代の後期に創建されたといわれ、海上安全守護の祈願のために安芸国(広島県)の宮島から勧請したと伝えられている。

お菊の化身として地蔵が祀られており、20年に1度公開される。県の有形文化財に指定されており、江崎湾に浮かぶ美しい佇まいが町のシンボルになっている。

江崎の古い絵図(長州安武郡江津浦略図)が、改装された蔵に展示されている。

江戸時代、江崎の浦年寄を務めた旧大黒屋の立派な建物が残る。伊能忠敬や吉田松陰が宿泊したといわれる。

江戸時代には、萩藩主毛利氏の本陣として利用され、本陣を火事から守るために竜吐水(消水ポンプ)が備えられていた。墓に埋葬された母のお腹から生まれ、後に高僧として崇められた大蔵和上の伝説が残っている。

江崎出身で、「おもちゃのチャチャチャ」や「天城越え」といった童謡・演歌などを幅広く手がけた作詞家「吉岡治」の生誕地

長州安武郡江津浦略図 個人蔵

江崎のまちなみトレイル

- 5 教専寺
- 4 旧大黒屋
- 3 西堂寺六角堂
- 2 江崎大漁橋
- 1 弁天様

施設のご案内

道の駅「ゆとりパークたまがわ」

山口県の最北端に位置し、国道191号沿いにある道の駅。西堂寺六角堂をモチーフにした屋根で、施設内には山・海・里の幸がそろい、ももやりんごなどの果物も豊富です。「萩りんごジュース」や「ゆず吉ジュース」など、道の駅農産加工場製造のオリジナル商品の数々や、江崎港の地元漁師の活魚も評判です。

住所：萩市下田万2849-1 電話：08387-2-1150
営業時間：8:30～19:00 (11月～2月は18:00まで)
定休日 毎月第3月曜日(祝日の場合は第2月曜日)



田万川温泉 憩いの湯

露天風呂も楽しめる日帰り入浴施設。道の駅の近くにあり、気軽に訪れることができます。休憩室や食事処もあり、特産品売り場も人気。キャンプ場、海水浴場、そしてRVパークと隣接しています。

住所：萩市下田万1740-1 電話：08387-2-0370
営業時間：10:00～21:00 (受付20:30まで)
料金：中学生以上410円、小学生200円、小学生未満100円
定休日：月曜日(祝日の場合は翌日)
RVパーク…全国で最初に「キャンピングカー専用宿泊施設」として認定を受けました。



田万川のおすすめ

萩・石見カントリー倶楽部

43万坪の広大な敷地で、美しい自然に囲まれ、一年を通してゴルフを楽しめます。コースには大学コースもあり、現在でも市内の大学生が利用しています。

手作り市場

江崎の町並みにもう一度にぎわいを復活させようとして始まったイベント。手作りの作品を展示・販売しています。年2回(春・秋)開催。

フラメンコ

独特なリズムで、華やかな踊りが見る人を魅了します。子どもフラメンコが人気!!年1～2回披露(道の駅、田万川コミュニティセンター、夏祭りなど)

田万川の郷土料理

イワシの煮売り

明治の中頃、大羽イワシが大量に水揚げされており、その際に売物にならないイワシを使い、浜で食する漁師のおかずとして作られたのが始まりです。

コクショウ煮

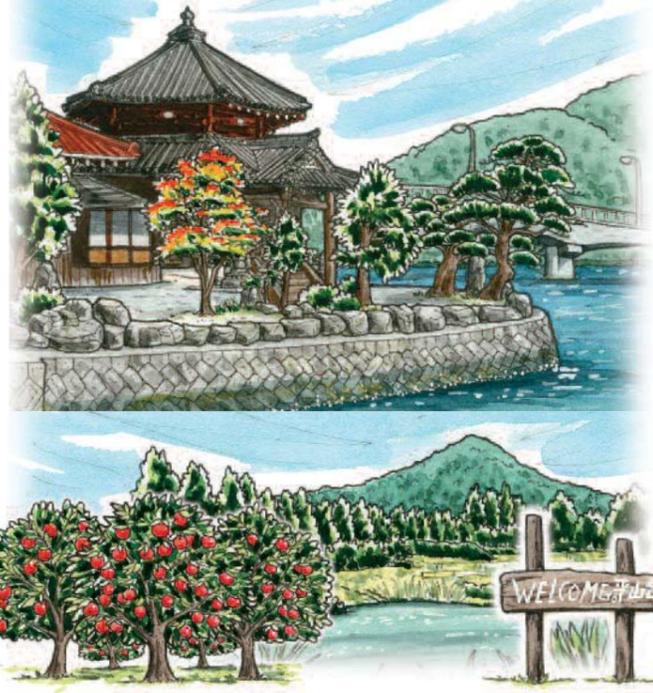
田の畦に植えた黒豆を使った「コクショウ煮」は、忙しい農家の常備菜として、大根と黒豆だけを煮た簡単なものでした。今では、人参、ごぼう、こんにゃくなどを入れ、おいしくしています。

田万川の季節暦

春	夏	秋	冬
<ul style="list-style-type: none"> 桃の花 桜(一本桜・尊正寺のエドヒガン・鍋山の桜並木) つつじまつり(道の駅5月) 田万川温泉開業記念感謝祭(4月) 	<ul style="list-style-type: none"> 小川夏まつり(弁天公園・8月) 道の駅まつり(8月) 結のつかみどり(8月) 	<ul style="list-style-type: none"> たまがわ夏まつり・花火(弁天公園・8月) 道の駅開業記念まつり(10月) 平山台まつり(10月) 江崎漁業さかな祭り(道の駅11月) 収穫感謝祭(道の駅11月) 	<ul style="list-style-type: none"> 暮れの市(道の駅・12月)

萩まちあるきマップ

たまがわ 田万川おたからマップ



田万川地域は萩市の北東部に位置します。北は日本海に面し、天然の良港といわれる江崎湾は、漁港として栄えてきました。毛利藩政時代には、米や蠟、紙といった「防長三白」の積み出し港として北前船などの回船が入りし、海が「縁」となりつくられた西堂寺六角堂、志士の墓など、人やものが行き交った名残が現在に伝えられています。中央を流れる田万川沿いの里の地は、肥沃な大地で、昔から米や野菜が実り、美しい田園風景が見られます。山々に囲まれた小川地区は、火山の噴火によって生まれた平山台、上の原台地、原山台の3つの台地があり、平山星の城をはじめとする中世の山城や千人塚などの戦いの跡が伝わりと共に、開拓され果樹園や田畑が広がっています。これら海・里・山に育まれた田万川の歴史や文化を感じながら歩いてみませんか。



このマップは萩まちじゅう博物館の各エリアのおたからを紹介するマップとしてシリーズで発行しています。詳しくは萩データベースでチェック!! machihaku.city.hagi.lg.jp/db/

田万川おたからマップ

道の駅「ゆとりパークたまがわ」

海に浮かぶように建つ六角堂は田万川のシンボル

おすすめトレイル

A 江崎のトレイル

〈海とともに生きる町〉

江崎では昔から漁が盛んに行われてきました。多くの魚介類が毎年11月3日のさかな祭や、道の駅「ゆとりパークたまがわ」などで販売され、海の恵を享受しています。そして、海が縁となり、お菊化身地蔵伝説や西堂寺六角堂、弁天様、前原一誠の墓などが残っています。

- 1 道の駅 ゆとりパークたまがわ
- 2 江崎大漁橋を渡る
- 3 江崎湾 眺望
- 4 西堂寺六角堂
- 5 江崎の町並み
- 6 雷聲文周の墓
- 7 酒樽墓
- 8 前原一誠ゆかりの地

6 酒樽墓
およそ二百年前、一人の浪人武士、五郎太が下田万村の津殿家をたよっておとすれました。酒好きでしたが、酒におぼれず、人の数倍も仕事に精を出し、「お手本の五郎太」と呼ばれていました。後に酒好きの五郎太にちなんで酒樽墓が作られました。お墓の周りを右へ3回回り、南を向いて墓の上に腰を下ろして、たばこを吸う真似をしながら、「三遍回ってたばこにしよう」と言う願い事がかかるとされています。



秋の夜を主導した前原一誠の迷亡を補助した船頭が、後に処刑された一誠を慰んで建てたといわれる墓で「米原一清」と刻まれている

江戸時代、九州からあわびがなるとりにとっていた海人の墓で、今でも子孫が墓参りに訪れる

前原一誠ゆかりの地
秋の夜を主導した前原一誠の迷亡を補助した船頭が、後に処刑された一誠を慰んで建てたといわれる墓で「米原一清」と刻まれている

5 松林門下生 雷聲文周の墓
雷聲文周は安芸国(広島県)出身で、吉田松陰の松下村塾の門下生。長崎で学び、明治時代に深江九郎と名を改めた文周は、この江崎村に住みつき医者者として活躍したといわれています。ここからは、江崎湾、その向こうの高山が一望できます。

一本のモミの木をくりぬいて作られた丸木舟が県内で初めて発見された。現在は防府市に所蔵されている。

毎年6月25日には江崎湾に花火の音が響き渡る



かつて、北前船など大小さまざまな回船が江崎の港に立ち寄り、にぎわっていた

北前船と江崎港

木造釈迦如来坐像 紙本墨書年徳の書
寛政10年(1798)、木喰上人により、私の生木に釈迦如来坐像が彫られました。そして、木喰上人は像彫刻のあいだに、当地の安井家から受けたもてなしに対し、お礼として年徳の書を書いたと伝わっています。



秋・石見コンクリー倶楽部

阿武火山群の中の一つ 耕作地

小川のトレイル 〈里・山とともに生きる町〉

- 8 武氏八幡宮
- 9 龍鱗郷
- 10 上の原台地
- 11 平山台
- 12 千人塚の一本桜

小川地区には火山の噴火によって生まれた3つの台地(平山台・原山台・上の原台地)があり、そのふもとには実り豊かな水田が広がり、平山台では桃・梨・栗・ぶどう・りんごなど一大果樹産地となっています。また、果樹園を奥に行くと、星の城と千人塚を見ることが出来ます。上の原台地には「龍鱗郷」があり、柱状節理の珍しい景色が見られます。そして、秋祭りには地元の人々の伝統的な神楽が舞われています。

12 13 星の城と千人塚と一本桜
星の城と呼ばれる山城の跡があり、ふもとの小平ヶ原は水田や畑となっており、その畑の中から、かぶとやよりの金具などが出土したといわれ、当時ここで激しい戦いがあったことがうかがえます。そして小平ヶ原には、千人塚といわれる3つの墓(弥勒・普賢・文殊)があり、戦いで亡くなった軍の将兵を埋めたものと伝えられています。



★ 星の城眺望ポイント

「塚穴」と呼ばれる構式石室古墳で、出土品として須恵器(土器)・刀子・釘が見えられた

推定樹齢300年。妙権寺は、幕末における四境戦争の一つ石州口の戦いの際、長州軍の屯所でもあった

幕末の四境戦争、石州口の戦いで、大村益次郎率いる長州軍の炊事にも利用された

水田開発のため、私財をなげうって、かんがい用の堤を築いた六石衛門の業績をたたえる碑

8 武氏八幡宮
かつては大内氏の祈願所であり、古くから地域の人々に信仰されてきました。神興と懸仏が有形文化財に指定されています。

境内地はスゴジイ・9アノキイ・チイガシラカジなどの巨樹が立ち並んでおり、天然記念物に指定されている

9 龍鱗郷(玄武岩の柱状節理)
六角形の石柱が立ち並ぶ岩肌が、小川地区の農道工事の際に偶然発見されたもので、県指定の天然記念物になっています。伊良尾山から川の中に流れ出した溶岩がゆっくりに冷えて固まってできた柱状節理です。全体の印象が龍の鱗のようであり、また、地域に伝わる神楽舞の大蛇を連想することから「龍鱗郷」と名づけられました。



標高349m絶壁に33体の観音石仏像や大師堂が建立されている

至津和野

田万川の流れていて水田が広がっている

この場所ではマグマが噴出してできた溶岩台地

小川交流センターのりり田万川総合事務所小川支所

イラオ山の噴火によって流れてきた溶岩がたまってできた台地

上小川東分

足摺山観音石仏像

平山台果樹園地入口

至阿武野橋

山城跡
田万川には、吉見阿波守が城主だったとされる星の城をはじめ、10の山城の跡があるといわれています。

須佐総合事務所弥富支所 弥富公民館

平山台果樹園地入口

秋市消防署弥富出張所

平山台果樹園地入口

至津和野

至津和野

至津和野

至津和野

至津和野